

JFE商事では、2018年～2020年の中期計画において、以下のITビジョンを掲げ日々取り組んでおります。連結経営の観点より、JFE商事の業務関連課題のみならず、グループ会社の課題にも着手しており、これらを総合してJFE商事のビジョン達成に向け努めております。

DX推進に関しましては、当社はRPA導入より開始しており、これによりデータ活用が進展し、社内の効率化に加え、お客様対応にも役立てております。

順次、グループ会社へもRPA導入を展開しており、各社のシステム刷新と合わせ、社内およびグループ会社のDX基盤を整備し、グループ一丸となり、今後お客様への高度なサービス提供を目指してまいります。

常務執行役員
坂本 達也

JFE商事 ビジョン

トレードと事業の両輪による安定収益基盤の確立と収益拡大

営業戦略業務への
シフト

現場力の
強化

グループシナジーの
発揮

JFE商事ITビジョン

成長を支える先進ITのテーマ

オフィスの生産性向上

RPAやAI活用による業務の自動化と高度化
(営業戦略に直結する業務にシフト)

コイルセンターの生産性向上

IoT技術でセンサデータの集約
(操業実態の見える化による諸改善)

グループシナジー発揮

JFEホールディングス、JFEスチール、
JFEエンジニアリングとの連携強化
(SCM、セキュリティ基盤共用、共同調達等)

連結経営の効率化

標準システムの適用拡大・刷新
国内外コミュニケーション環境の充実

先進ITを支える基盤

情報セキュリティ強化

システムの安定稼働

IT人材の確保・育成

RPA全社展開活動

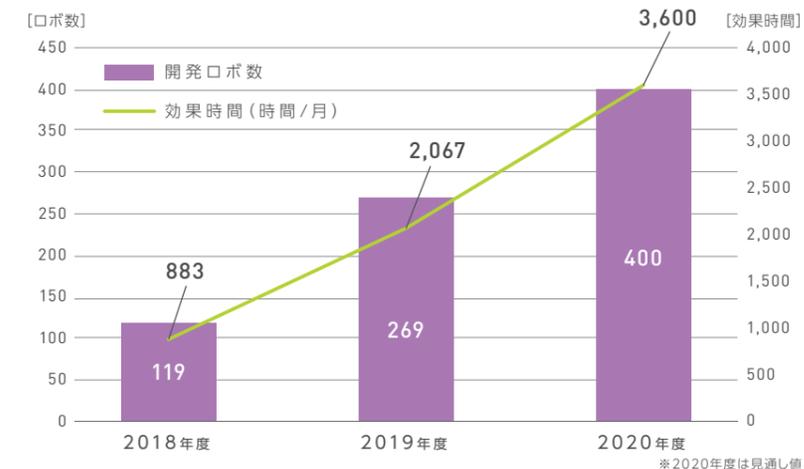
JFE商事では、2018年～2020年の中期計画において、RPA導入の全社展開に取り組んでおり、足元見通しでは2020年度末に、中期目標：年間4万時間(月間3,300時間)を超過する4万3千時間(月間3,600時間)の効果に到達する見込みです。

各業務組織においては、単に業務をRPA化するのではなく、これをキッカケとした業務見直しを行い、その上でRPA化すべき業務を抽出しています。そのため、担当者間における業務方法の差が解消され、標準化が進化した事例が多数生まれております。また、前年度より本部内での業務標準化に取り組む組織もあり、これの成功により、多くの社員が使用可能となり、1ロポ当たりの削減時間(効果)も上昇傾向にあります。

同時に、以前に比べ、お客様への連絡が「速く、定期的に、定型化」となった事例もあり、サービス向上にも寄与しております。



年度	2018年度	2019年度	2020年度
開発ロポ数	119	269	400
効果時間(時間/月)	883	2,067	3,600



JFE VOICE!

JFE商事では10年以上「業務改善活動」(J-SLIM活動)に取り組んでおり、この成果発表会を年一回開催しております。その中でも、半数以上の室よりRPAを題材にした発表がされています。

- RPA導入を通じて既存のやり方に疑問を持つマインドが生まれた
- 今では、社内の効率化のみならず、取引先も巻き込んで改善に取り組むスタンスが当たり前になった
- RPAからの派生で、他部署とタイアップしたプロジェクトを立ち上げ新規システム構築を予定している

- 担当者個々に作成している「案件管理表」の統一は、過去からの室のテーマであったが、多くのシステムが関係するため難航していた
- RPA導入をキッカケにこのテーマが実現できる見込みが立った
- 今後は、RPAにて開始したデータ蓄積をより拡大し、これを活かした新しいサービスの構築を目指していきたい



発表する
第一自動車貿易室の
北條さん



発表する
資機材貿易室の
橋本さん